



記入日 2015 年 1 月 12 日

1. 概要

実践団体名	一般社団法人 PORO		
連絡先	kaz-hori@nifty.com (担当者堀清和)		
プランタイトル	障がいのある子も楽しく学べる防災教育		
プランの対象者※1	小学校低学年 小学校高学年	対象とする 災害種別※2	災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

障がい児の防災は支援者がどう支援するかに重点が置かれがちですが、このプランでは当事者の自助能力向上を目的とした防災教育の実践を目指しています

【プランの概要】

障がい児者の特性を考慮した防災ワークショップを実践し
従来の防災教室や避難訓練に参加する事が難しいお子さんの
自助能力（たすけてを伝える、身を守る、逃げる）を高めます

【期待される効果・ここがおすすめ！】

発達障がいや自閉症などの障がい特性のある人への防災は、従来は支援者への対策・研修が中心でした。このプランでは、障がいがある人でも、その特性を配慮しながら
できること（助けの求め方など）を増やしていこうと試みています

2. プランの年間活動記録 (2015 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	防災イベントの呼びかけ		
5 月		施設とイベントの開催協議	
6 月	夏休み防災教室開催に向けて調整	啓発冊子、教材の制作開始	
7 月			7 月 5 日日本健康教育学会で、昨年度の防災教育チャレンジプランで実施した実践の成果を発表
8 月	横浜市内の小学校での防災教育実施を企画・調整	(一社) 障害者防災対策支援協会と連携し障がい者施設での防災対策支援活動を開始	8 月 25 日堺市内の障がい児支援施設で 9 名を対象にワークショップを開催
9 月	大阪を中心とする障がい者施設に防災対策プログラム導入を呼びかけ	施設向け防災対啓発活動開始 すみよしまつり防災ブース展示物準備	
10 月	冬休み防災教室開催に向けて企画・調整	啓発冊子作成	10 月 24 日すみよしまつりで防災ブースを展示 10 月 25 日日本福祉文化学会で実践の成果を報告
11 月			11 月 5 日横浜市の横浜市立元石川小学校の特別支援教室で 4 名を対象に防災教室を開催
12 月	天王寺区で施設関係者向け勉強会開催を企画・調整		12 月 5 日堺市内の障がい児支援施設で 2 名を対象に防災教室を開催 12 月 7 日堺市内の放課後等デイ施設で施設防災対策支援(施設点検)および職員向けの助言 12 月 8 日大阪手をつなぐ育成会(鶴橋)で家族代表者向けの防災講演 12 月 17 日茨木市とよかわ福祉会(B型作業施設)で施設防災対策支援(施設点検)および職員向けの助言
1 月	来年度4月2日の世界自閉症啓発デイに自閉症児者への防災イベントを企画	→大阪北区の街づくり協議会、北区まちづくりセンターと協議	1 月 12 日大阪手をつなぐ育成会(鶴橋)で施設関係者向けの防災講演
2 月			2 月 6 日八尾市大正小学校内放課後児童教室(こばと教室)で児童向け安全教室開催
3 月			3 月 5 日大阪市西区本田小学校生涯学習ルーム事業で子ども・高齢者の防災講演 3 月 16 日天王寺区で区役所と連携し施設関係者向けの防災講演



3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1】※3

タイトル	学会発表「小学校における障がい児への防災教育」
実施月日（曜日）	7月5日（日）
実施場所	前橋市中央公民館：第24回日本健康教育学会学術大会（群馬県前橋市）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：発表者・担当者 氏 名：村上佳司（発表＝共同研究者）、堀清和 所属・役職等：國學院大学教授、PORO（担当者：堀）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	15分（発表10分、討論5分）
プログラムの カテゴリ、形式※4	講演会・シンポジウム（学会発表）
活動目的※5	その他（採択条件の学会等での発表、成果の普及）
達成目標	研究者、教育者への障がい児者への防災教育方法の普及
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	昨年度のチャレンジプラン実践の学会発表（群馬県前橋市） 10分の発表時間と5分の質疑応答
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パワーポイント
参加人数	30名程度
経費の総額・内訳概要	27,240円（交通費）
成果と課題	【成果】 教育関係者に障がい児への防災教育の方法や実践の際の留意点を広めることができた 【課題】 より重度の障がい児者への教育方法の検討を深めること
成果物	学会抄録集に発表概要が掲載

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 2】※3

タイトル	夏休み防災教室
実施月日（曜日）	8月25日（火）
実施場所	堺市 NPO 法人ぴーす（障がい者支援施設）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：堀清和、前田万亀子 所属・役職等：PORO 副理事長、理事
所要時間または 「コマ数×単位時間」	90 分
プログラムの カテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災 災害を想定した訓練
達成目標	楽しみながら障がいのある子の自助能力を高める
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	パワーポイントによる知識学習 頭を守る練習、たすけての練習、避難の練習 ロールプレイ学習（助ける、助けられる役） カードを使った振り返り学習 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材：施設スタッフ、支援者 ・道具材料等：パワーポイント ざぶとん（頭を守る）、三角定規（割れたガラスに見立てる） 視覚支援用紙（見通し表、にげて等の指示用紙）、カード
参加人数	9名 小学生3名中学生4名 高校生2名 発達障害・知的障害の児童生徒
経費の総額・内訳概要	1280 円：640×2名（交通費：本町なかもず間往復）
成果と課題	【成果】 ロールプレイを交えたことで興味を持ち 子どもたちが積極的に参加していた 【課題】 人数が多く当日集まった年齢層が幅広かったため 発言できない子がいた
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 3】※3

タイトル	すみよしまつり防災ブース出展
実施月日（曜日）	10月24日（土）
実施場所	沢之町運動場及び住吉区役所一帯
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：堀清和、前田万亀子 所属・役職等：PORO 副理事長、理事
所要時間または「コマ数×単位時間」	5時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	防災意識の向上と成果物啓発冊子の普及
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	ブース内でタブレットを利用した こどもむけミニワークショップを実施
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	タブレット 成果物「啓発冊子」（来場者に配布） 
参加人数	防災ブース内約 50 名
経費の総額・内訳概要	1560 円：780（交通費：本町、沢ノ町往復）×2 名
成果と課題	【成果】 家族連れ、一般のお子さんや防災エリア内の防災関係者への啓発活動ができた 【課題】 付近に子どもが興味を持ちそうなミニ機関車があったため子どもたちの関心を集めるのに苦労した
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。


【実践プログラム番号： 4】 ※3

タイトル	学会発表「発達障がい児への防災教育・対策の取り組み」
実施月日（曜日）	10 月 25 日（日）
実施場所	第 26 回日本福祉文化学会神戸大会（兵庫県福祉センター）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：堀清和 所属・役職等：PORO 副理事長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	25 分（発表時間 20 分、質疑応答 5 分）
プログラムの カテゴリ、形式※4	講演会・シンポジウム（学会発表）
活動目的※5	その他 （採択条件の学会等での発表、成果の普及）
達成目標	研究者、教育者への障がい児者への防災教育方法の普及
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	8 月 25 日に堺市で実施した防災教室の準備過程（先行研究調査）と実践方法、成果、課題について報告 発表時間 20 分、質疑応答 5 分
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パワーポイント 成果物「啓発冊子」（会場で配布）
参加人数	15 人
経費の総額・内訳概要	540 円（交通費：自宅←→会場：阪神甲子園～岩屋往復）
成果と課題	【成果】 特別支援学校の先生が参加されており具体的な実践方法について熱心に聞いておられ、勤務校でも取り入れたいと言ってくださった。 【課題】 小会議室での発表のため参加者できる方が少人数であった。
成果物	学会抄録での発表の記載、現在福祉文化学会学会誌に論文投稿中

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 5】※3

タイトル	横浜市立元石川小学校「防災教室」
実施月日（曜日）	11月5日（木）
実施場所	横浜市立元石川小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：村上佳司 所属・役職等：國學院大学教授
所要時間または「コマ数×単位時間」	40分
プログラムのカテゴリ、形式※4	出前授業
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災 災害を想定した訓練
達成目標	楽しみながら障がいのある子の自助能力を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	プログラム 1. パワーポイントによる解説 2. 地震を想定した教室内避難（机の下に隠れる 防災頭巾のかぶり） 3. 避難経路の確認，非常口の確認，非常ベルの確認，消火器の確認 ・目印（視覚支援のための色のシール）をたどって移動 ・教室から体育館 （不審者が侵入して1F校長室にいることを想定） 往路： 教室 → 校長室の逆方向 → 階段 2F → 廊下 → 階段 1F → 廊下 → 体育館 （体育館で人数確認） 復路： 体育館 → 廊下 → 教室 4. カードを使った振り返り 校長室で振り返りインタビュー：校長先生，学級担任 1名
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パワーポイント、防災頭巾 
参加人数	発達障がい・自閉症児 4名、支援教諭 2名、校長 1名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 学校側の要望で防災と防犯（不審者侵入を想定）両方の避難訓練を実施し、4名の児童が楽しそうに参加していた。 【課題】 年間スケジュールの中で防災教育のために充てる時間が少ないためいかに行動能力を定着させていくかが課題と考えられる。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 6】※3

タイトル	楽しく学ぶ防災教室
実施月日（曜日）	12月5日（土）
実施場所	堺市 NPO 法人ぴーす（障がい者支援施設）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：堀清和 所属・役職等：PORO 副理事長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	90 分
プログラムの カテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災 災害を想定した訓練
達成目標	楽しみながら障がいのある子の自助能力を高める
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	パワーポイントによる知識学習 頭を守る練習、たすけての練習、避難の練習 ロールプレイ学習（助ける、助けられる役） タブレット、カードを使った振り返り学習 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材：施設スタッフ、支援者 ・道具材料等：パワーポイント ざぶとん（頭を守る）、三角定規（割れたガラスに見立てる） 視覚支援用紙（見通し表、にげて等の指示用紙）、 タブレット、成果物「視覚支援ボード」「カード」、 成果物「啓発冊子」を保護者に配布
参加人数	発達障がい、知的障がいのある小学生 2 名、支援者 4 名
経費の総額・内訳概要	640 円（交通費：本町なかもず間往復）
成果と課題	【成果】 通常の防災訓練に参加が困難な子 2 名を対象に少人数の子に寄り添いながら教育を行い、2 名とも素晴らしい笑顔で参加できた。 【課題】 参加者の一人が開始時刻に遅れたため、早く到着していた子が開始当初に着席したがらないなどの不穏行動を見せた。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 7】※3

タイトル	放課後等デイ施設の施設防災対策支援
実施月日（曜日）	12月7日（月）
実施場所	堺市放課後等デイ施設ちえりいくらぶ
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：堀清和 所属・役職等：PORO 副理事長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	120分
プログラムの カテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	防災に関する知識を深める 災害対応能力の育成
達成目標	施設の防災能力を向上させるとともにチャレンジプランで得られた知見とプログラムを施設で普及させる
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	（一社）障害者防災対策支援協会と連携して施設内の防災対策（家具転倒対策等のハード面、訓練などのソフト面）をチェック ヒアリングを行い改善すべき点を指摘 施設責任者と質疑応答によりその施設の特性に応じた防災対策、利用者への防災教育を助言
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	成果物「啓発冊子」（施設職員に配布）
参加人数	施設責任者1名スタッフ2名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 放課後等デイ利用者への防災教育の方法（チャレンジプランで得られた知見）を導入してもらい、施設内での訓練に活用してもらうこととなった。地域紙大阪日日新聞から取材を受け報道された。 【課題】 予算のかかる対策面（破損防止フィルム）やスタッフ間での情報共有のあり方に改善すべき点がまだ残っていた。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。


【実践プログラム番号： 8】 ※3

タイトル	手をつなぐ育成会家族代表者向け講演
実施月日（曜日）	12 月 8 日（火）
実施場所	大阪手をつなぐ育成会事務局（鶴橋）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：堀清和 所属・役職等：PORO 副理事長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	30 分
プログラムの カテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	家族会の方々に防災に関わる障がい者支援に必要な事柄に気づいてもらい防災意識を高める「啓発と普及」
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	これまでの取り組みの説明 障がい者の防災に必要なポイントの解説 啓発冊子を配布
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	成果物「啓発冊子」
参加人数	約 30 名
経費の総額・内訳概要	480 円（本町・鶴橋間往復）
成果と課題	【成果】 その後、障害者防災対策支援協会と連携して進めている対策・教育プログラムの導入が、育成会と関わりのある放課後等デイ施設 2 施設で決定 【課題】 会場でパワーポイントが準備できなかったため、視覚的に理解しやすい工夫が必要だった。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 9】※3

タイトル	B 型作業施設での施設防災対策支援
実施月日（曜日）	12 月 17 日（木）
実施場所	茨木市とよかわ福祉会（B 型作業施設）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：堀清和 所属・役職等：PORO 副理事長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	120 分
プログラムの カテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	防災に関する知識を深める 災害対応能力の育成
達成目標	施設の防災能力を向上させるとともにチャレンジプランで得られた知見とプログラムを施設で普及させる
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	（一社）障害者防災対策支援協会と連携して施設内の防災対策（家具転倒対策等のハード面、訓練などのソフト面）をチェック ヒアリングを行い改善すべき点を指摘 施設責任者と質疑応答によりその施設の特性に応じた防災対策、利用者への防災教育を助言
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	成果物「啓発冊子」（施設職員に配布）
参加人数	施設防災責任者 1 名 施設長 1 名 理事長 1 名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 水や非常食等が備えられていなかったが、助言後備えられることになった。防災責任者が一括して管理していた防災に関わる情報を施設スタッフで共有する方向で改善が進められている。 【課題】 避難経路にある大きなガラス面に防災上の脆弱性が見られたが予算等の兼ね合いもあり全てのガラスに飛散防止フィルムを貼ることは困難であるように思われる。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：_____】※3

タイトル	手をつなぐ育成会施設関係者向け講演
実施月日（曜日）	1 月 12 日（火）
実施場所	大阪手をつなぐ育成会事務局（鶴橋）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：堀清和 所属・役職等：PORO 副理事長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	30 分
プログラムの カテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	施設関係者の防災意識を高め本プログラムの導入を促進する
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	天王寺区内の障害者施設関係者に防災に関わる障がい者支援に必要な事柄に気づいてもらい防災意識を高める「啓発と普及」 これまでの取り組みの説明 障がい者の防災に必要なポイントの解説 啓発冊子を配布
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	成果物「啓発冊子」
参加人数	約 30 名
経費の総額・内訳概要	480 円（本町・鶴橋間往復）
成果と課題	【成果】 防災が大切だということは頭では理解していても、日常業務の煩雑さを理由にしてなかなか取り組んでももらえない方々への意識啓発になった。 【課題】 地域や行政と連携しながら実際の施設で今回のプランで得られた知見を普及させていかなければいけないと考える。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点	今年度のプランで重視した継続と普及を行うに当たって、地域への普及や様々な団体との連携を目指していた。その中で、連携はすることはできても防災へのウェイトの置き方、スケジュールの進め方（スピード感）、協働する際の労力の置き方が、それぞれ異なるため、共通の目標を設定することに工夫を要した。 例えば、防災の重要性は理解しているが、それよりも各団体が主として取り組んでいるテーマ（家族支援など）を重視したいという要望があるなど、先方が重きを置いているテーマを取り入れて融合する必要があった。特に、障がい者家族にとっては、防災について考えてみましょうと提案しても、そこまで響くテーマではなく、日々の療育に追われてそんな余裕がないという反応が多く見られた。 そこで、あえて防災を前面に出さずに、非常時のコミュニケーション（助けの求め方など）のスキルを身に付けましょうといった、コミュニケーション学習という側面を強調することで、共通の目標を共有することができ、防災に興味を持たない人々を巻き込むことに功を奏した。
準備活動で 苦勞した点 工夫した点	学校での実践では、事前に参加者の障がいの種類や程度を把握することができ、事前に一人ひとりの子どもに対応した内容を準備することが可能であったが、施設での実践では、突然参加する子や、その日の状態次第で急に参加できなくなる子がいたため、様々な状況を想定して準備しておき、教える内容や手順を当日の参加者をみて決め直す必要があった。 より柔軟に対応できるように、普段から子どもたちと関わっている支援者の協力を得て、パニックやトラブルの発生に対応できるようにした。12月の施設の実践では、あえて参加者を少人数になるよう調整し、一人ひとりの子どもに行動が定着できるような学習環境づくりを工夫した。
実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点	障がいのある子が突然部屋からでていこうとするなど、進行と相反する行動を取った時の対応が難しかった。 参加を強制すると、よけいにパニックに陥るため、寄り添い役の支援者に対応してもらい、興味や集中を引き付け直すことで対応が可能となった。 部屋に学習と関係のないもの（かばんやぬいぐるみなど）があると、それを見つけて集中力が途切れてしまうので、あらかじめ関係のないものを見えない場所に移動させておく等の工夫をした。



5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	國學院大学 関西福祉科学大学現代ソーシャルワーク研究会 横浜市立元石川小学校 八尾市対象小学校放課後児童教室「こぼと教室」 大阪市西区本田小学校	助言・調査研究協力 研究 イベントの実施 イベントの実施 イベントの実施
保護者・ PTAの組織	大阪手をつなぐ育成会 大阪自閉症協会	啓発普及活動 啓発普及活動
地域組織	茶屋町まちづくり協議会	イベントの企画立案
国・地方公共団体・ 公共施設	大阪市北区まちづくりセンター	イベントの企画立案
企業・ 産業関連の組合等	ECC 社会貢献センター モリモト医薬	イベントの連携 避難時に必要な備え（薬関係）の情報共有
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	NPO 法人ぴーす NPO 法人えんばわめんと堺 NPO 法人日本子どもの安全教育総合研究所 NPO 法人南大阪自立支援センター 社会福祉法人とよかわ福祉会 大阪府就労継続支援 A 型事業所連絡協議会 （一社）障害者防災対策支援協会	イベントの実施 イベントの実施 情報提供・共有・助言 普及・啓発 普及・啓発 普及・啓発 障がい者施設への普及
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	日本健康教育学会 日本福祉文化学会	学会発表 学会発表

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として 得たこと	二年目のプランということで今年度はプログラムの改善と継続、啓発・普及活動に力を入れた。 実践を積み重ねる中で少しずつ連携の輪が広がっていき （一社）障害者防災対策支援協会と連携することで、大阪府を中心に障がい者施設 30 施設で、本チャレンジプランで得られた知見を基にした防災対策・研修・利用者への避難訓練プログラムの導入していただくことになった。 障がい児者の家族会との連携することで、大阪府内を中心に当事者・家族に障がい児者の防災教育の啓発の輪が広がっていった。 このような動きを受けて、大阪市内の行政（天王寺区や北区）、尼崎市との協働の動きがでており、行政や地域、施設と連携した障がい児者への防災教育の実施の動きが現実的になってきている。
全体の反省・ 感想・課題	今年度の前半はプログラムの改善やそれに伴う教材の準備、啓発冊子の作成に追われていたが、後半に入り、成果物の啓発冊子を利用して啓発と普及活動に重点を置いた。 障害者防災対策支援協会と連携することが決まって以降、自治体や当事者・家族会団体、障がい者施設、地域コミュニティとのつながりが次々と広がっていき、普及への弾みをつけることができたのはうれしい誤算となった。結果として、1 月現在で放課後等デイ施設を中心とする障がい者施設 30 施設での障がい者の防災対策・研修・訓練の導入を行うことが決まった。 課題としては、今年度つながりができたネットワークを活用して、持続的な啓発・普及・教育活動を継続していく必要があり、当団体だけではなく、施設や地域での教育の担い手を育成していかなければならないと考える。
今後の 継続予定	障がいのある当事者とその家族への啓発や教育については、当事者団体、家族団体を通して引き続き行っていきたいと考えている。 学校への普及は、学会発表や研究活動を通して交流のできた小学校と協働して活動を継続していきたいと考える。 今年度の最も大きな収穫は、障がい者施設の防災対策を支援する障害者防災対策支援協会との連携することで、多くの障がい者施設に本プランの知見の提供を行う道筋をつけることができたことである。施設での担い手の育成も含めて、施設や他団体と協力して本プランの知見の普及に努めていきたい。 地域での定着については、大阪市北区まちづくりセンターや ECC 社会貢献課と協力関係を構築することができたので、障がいのある人でもない人でも安心・安全に暮らせるまちづくりの一環として、障がい児者向けの防災教育を定着させていきたいと考えている。 また、行政との連携についても、現在、天王寺区や尼崎市で本プランにご興味を頂き、勉強会を開催するなどの連携できる兆しがあるので、このつながりを大切にしながら他地域での普及についても進めていく予定である。



7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

●得られた知見

障がいのあるお子さんへの防災教育では事前説明と視覚支援が鍵を握ります。

昨年の実践で課題となっていた、多動傾向のあるお子さんが訓練時に施設外や経路外に飛び出そうとする点については出発点とゴール地点に目印となるマットを敷くことで問題なく目標の場所で立ち止まることが可能となりました（写真参照：赤いマット、黄色いマット）。



学校での実践では、避難経路の移動距離が長い場合途中に色紙を貼っておき、事前に色紙を目印にして移動しましょうと伝えておくことで、経路から外れることなく移動することが可能となりました。

カード（写真：気持ちをじゃんけんに見立てたカードを用いて、様々なシチュエーションを問いかけてその場面でどういう気持ちになるか考える、こまったこと・たすけてほしいことを伝える）や寸劇（困ったシチュエーションを大人が演じて気持ちを考える、助けを呼ぶ方法を学ぶ、自分たちでもやってみる）を活用することで、理解しやすくなり、積極的に学習や訓練に参加してくれるようになった。



（制作教材：きもちカード）

●本年度今後の予定 (1 月現在)

2 月 6 日八尾市大正小学校内放課後児童教室（こばと教室）で児童向け安全教室開催

3 月 5 日大阪市西区本田小学校の生涯学習ルーム事業で子ども・高齢者の防災講演

3 月 16 日天王寺区で区役所と連携し施設関係者向けの防災講演

その他、日程はまだ決まっていますが、年度内に大阪府内の障がい者施設で施設防災対策支援や講演の予定。

4 月 2 日。世界自閉症啓発デイに合わせて、大阪自閉症協会、大阪市北区まちづくりセンター、茶屋町まちづくり協議会、ECC 社会貢献センターと連携して、大阪市北区を中心に自閉症啓発イベントを開催予定、その中で障がい者の防災の啓発・普及イベントを実施する予定です。

●（一般社団法人）障害者防災対策支援協会について

<http://shobokyo.net/>

一般社団法人障害者防災対策支援協会 〒550-0002

大阪市西区江戸堀 1-22-38 三洋ビル 404

TEL : 06-6147-8609 / FAX : 06-7635-5638

本プランの実践や啓発・普及を進める上で、各団体や施設、地域、行政との連携の輪を大きく広げるきっかけとなった障害者防災対策支援協会について補足説明をします。

障がい児が放課後に利用する放課後等デイ施設は、近年急速にその施設数を増やしていますが、安全対策や防災対策をしている施設はごくわずかです。障がいのある子どもたちが通う学校では、十分とは言い難いですが、最低限の対策を行うことが義務付けられています。しかし障がい児者が日常的に利用するこれらの施設では長い時間滞在しているにもかかわらず、防災対策どころか他の児童関係の施設で行われているような基本的な安全対策すら整っていない施設が多々あります。そこで障がい者の障がい特性に合わせ災害対策プログラム（福祉施設の防災対策状況のチェック、防災プログラムの策定サポート、マニュアルの作成補助や研修などをパッケージングしたプログラム）を提供しているのがこの協会です。

本プランとの関わりでいえば、担当者の堀清和が、アドバイザー・防災対策検査担当者として関わり、申請施設に対して障がい特性に合わせた訓練方法や教育方法の助言を行っています。この連携の中で本プランで得られた知見の提供や、啓発冊子の配布を行っております。

この取り組みの様子は大阪の地方紙、大阪日日新聞でも 12 月 20 日の記事で取り上げてもらいました（次ページ写真参照）。

（自由記述： 2/3）



12月20日大阪日日新聞

「障害者施設に防災対策を 堺市のNPO、導入を支援」

<https://www.nnn.co.jp/dainichi/news/151220/20151220030.html>



●人と防災未来センターで成果物「啓発冊子」の展示

本プランで製作した成果物「啓発冊子」(右写真)が
人と防災未来センターの減災グッズ展 vol.4

「パーソナリティ×減災

個々人にとって必要な備えを探求しよう！」

(高齢者、障がい者、妊産婦、外国人などの

いわゆる災害時要援護者向けグッズ展)で取り上げられ
展示されることになりました。

・展示会期：

2015年12月15日(火)～2016年2月28日(日)

・展示会場：人と防災未来センター 西館 2F 防災未来ギャラリー

(有料ゾーン)

〒651-0073 兵庫県神戸市 中央区脇浜海岸通 1-5-2



(自由記述: 3/3)